

令和6年度 北海道・東北 体育・保健体育ネットワーク研究会 山形さくらんぼラウンド報告

テーマを「学びに向かう力，人間性等の指導と評価」

とし、高橋修一先生の提言を元に、主体的に学習に取り組む態度について、活発なグループワークがなされ、様々な気づきと学びの多い、実りある研修となりました。

参加者計16名（オンライン2名、参集14名）の少数精鋭での会となりましたが、小・中・高の校種に分かれて、自分の現在抱えている課題や好事例を共有しながら、より具体的でリアルな概念知、具体知、方法知を出し合い、校種問わず、全体で共有することができました。

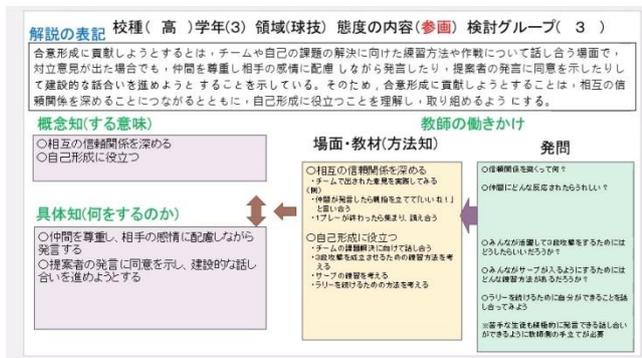
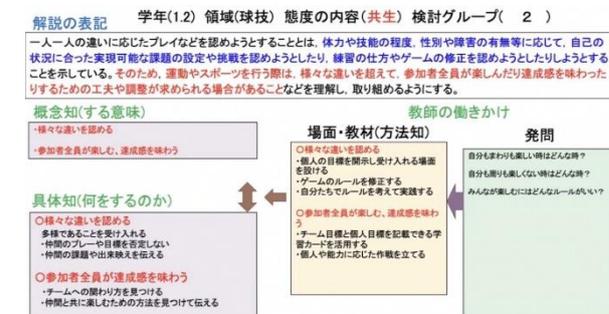
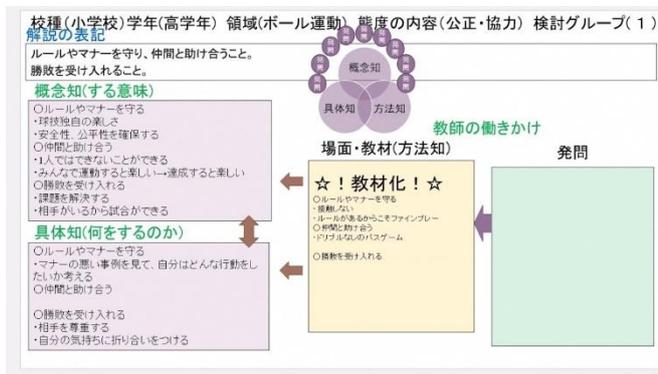
今回は岩手県から多数参加（昼も夜も）していただきました。その勢いに負けられないよう、来年は山形県の先生たちが多数参加し、みんなでわいわい言いながら学び合っていけるような今年以上に盛り上がった会になればと思います。

1 トピックス

日本女子体育大学 高橋修一教授より、「学びに向かう力，人間性等の指導と評価」についてお話していただきました。学習指導要領に示された内容を指導し、指導したことを評価するという「指導と評価の一体化」の原則を踏まえて、主体的に学習に取り組む態度の評価の場面や時期について、分かりやすく説明していただきました。

2 グループワーク

続いて、参加の先生方で小・中・高の校種別に分かれてグループワークを行いました。「指導の工夫マップ」を作成しながら、現在の授業の現状や課題について、いろいろ意見交換を行いました。今回は、学生さんからベテランの先生方、教育委員会の指導主事等幅広く参加いただきましたので、様々な年代の先生の課題などが話題となりました。場面設定時や生徒の姿の際には、現場の先生ならではの考えが随所に出され、羨ましさを感じてしまいました（私見）。



3 まとめ

最後に、高橋修一先生からのお言葉でグサッと刺さったフレーズを右に紹介させていただきます。

部活動中心に強化指導のスペシャリストだった保健体育教員も、これからは教科指導のスペシャリストにならないと、実感させていただきました。

